

議員の手づくり 市政かわら版

編集・発行/豊中市議会 無所属の会
〒561-8501豊中市中桜塚3-1-1
(豊中市役所内)
TEL.6858-2620(直通)
FAX.6852-2384

議員定数問題 議会大混乱 徹夜で議論もむなし

議会における議員定数の問題は数年前から協議されてきましたが、本格的な中身の議論を集中して行ったのは昨年度からでありました。これまでは議会各会派による協議がある程度まとまった段階で正式に議案として議会に提出され、圧倒的多数で可決されるというのが通例でした。過去、2度にわたり議席数が削減された際もそのような経緯を経て可決に至っています。ところが今回は協議がまとまらず、徹夜での会派間協議も行われましたが、最終的にはまとまらないまま議案提出を強く主張する会派が出てきました。それを受けて、やむなく私たちの会派も市民に自らの考えを表明する意味も込めて独自案の提出に至りました。

議員定数はどうあるべきか

本来議席数変更というものは、根拠なくその時の政治判断で行うと多数派に有利な状態で行われる恐れがあり、民主主義がゆがめられかねません。そのため、豊中市議会として独自の根拠や基準を作り出すべきです。そのためには行ってきた提案を私たちが単なる過半数ではなく大多数の賛同をもってそもそも提案すべきであるというのが私たちの考え方です。また、近年の政治不信・無関心や不祥事続きの地方議会の現状から、議会を活性化・見える化をすすめていくことが重要であり、その財源確保のために手段として議員定数を削減することは選択肢の一つと考えられています。

今回、結果として7議席減、4議席減、2議席減という3案が提出され、そのうち私たちは4議席減の提案を行いました。豊中市議会はほとんどの議案が常任委員会で詳細な審議を行っていることから、『委員会中心主義』の議会であり、全議員がいずれか1つに所属することとなる4つの常任委員会の委員数は均等であるべきとの考えから、議員の増減数は4人単位で行うのが最適と考えました。7議席減や2議席減の提案者からはなぜその数字を提案するのか明確な根拠の説明がなく、また、私たちの提案に対する具体的な説得力のある反論もありませんでした。自分たちの案ありきで他会派の意見を取り入れることなく定数削減を目的化した行動だったのではないのでしょうか。

結果として、2議席減の34人となり平成31年の市議選から定数が増えたり減ったり。私たちはあくまで、豊中市議会としての定数に関するルール作りをこの際からもこだわり、今後は今回のような不毛な混乱に時間を費やすことなく、まともな議論のできる議会運営を目指してまいります。

阪急電鉄の各駅にも 転落防止柵の設置を

私たちの会派は、北大阪急行線での可動式ホーム柵の設置が提案された際からも、阪急沿線での設置を推進するべきと提案してきました。市内の北大阪急行電鉄の各駅には、既に設置され、今年からは大阪モノレールの各駅にも順次設置される予定となりました。しかしながら、阪急電鉄については、未だに設置の予定はありません。一方で、市内の鉄道駅の中で、乗降客数が多い駅の上位5駅の中には、阪急豊中駅と蛍池駅が入っています。さらに、駅ホームからの転落事故件数も、平成27年度では、阪急電鉄が7件、北大阪急行電鉄が3件、大阪モノレールは0件と、阪急電鉄が最も多くなっています。毎年のように市内の駅ホームでも転落事故が発生しており、死亡事故も出ています。乗降客数も、転落事故件数も多い、阪急の各駅にも少しでも早く転落防止柵が設置されるよう、事業者に向けて取り組むことを働きかけるよう、市に要望するとともに、今後も実現に向けて会派としても取り組みます。

住んでみたい♪誰もが知ってる千里の魅力

魅力的駅前広場は街の顔!

千里中央駅前広場については市は、再整備に合わせ、乗り継ぎ利便性の改善、バリアフリー、バスターミナルの集約化を図るとともに、地区全体で交流・賑わいを創出する空間、広場づくりを進めることに取り組むことを表明しました。

駅前広場の再整備については文字通り「駅顔」としてアメニティ空間を演出し、居続けたい広場、若者のデートスポットや待合場所として魅力的駅前広場になることが重要な課題だと考えます。

この案件に関しては、まさに市民の思いや願いを反映すべきと考えており、皆様とともに取り組んでまいります。

交通渋滞解消と安心・安全対策

今後の千里中央地区発展を考えれば構造的な問題を解決し渋滞の発生を最小限にしなければなりません。この課題解消のため再整備に合わせ、バスと自動車動線の分離、駐車場の適正配置、道路配置や幅員の見直し等の抜本的な対策を検討するなど、これまでの私たちの提言を取り入れた対策をとることになります。

千里ブランドに磨きを!

千里中央地区の更なる魅力や他の商業施設との比較優位性を際立たせることで住民や利用者へ愛され集客力ある地域へと変貌することが必要です。

千里ブランドの更なるグレードアップが豊中市都市経営の機関的役割を担っている千里地域の役割だと考えており、その使命をしっかりと果たしていきたいと思えます。

セルシー建て替えの方向へ

H20リテイリングが千里阪急百貨店とセルシーとの一体再開発を発表。事業主が目を付けたのは、梅田まで約20分、大阪国際空港や新大阪駅にも近いという利便性で、郊外でのターミナル立地の1番店になるような10万㎡という大きな商業施設を作るとしています。

これまでで最大の再整備となる今回の事業は千里中央地区がもつ課題解決と新たな価値の創造に千載一遇のチャンスとなり事業者の手腕が問われるとともに議会や市に課される役割や責任は重大です。

